

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

紀玉川

二

利9
3869
//

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
JAPAN
TOLEDO

御つるしせらふまふ文がうとよし侍ちかてこく高し
 あひまゝ致しわらふんを殿とくこれまゝはれり
 けしめ新致の味を彼中わらふるまゝけり
 せしと人の身ふえ入は情を承りまゝの山家と移る
 重厚よりけりまゝけりくまゝとてまはれ難致の味を
 あまひくはれまゝのまゝの榮喉とせりまゝの味を
 けりんとせりまゝの味を吐くと記す川の味は
 毒かゝるまゝの味を吐くと記す川の味は

文政三辰三月一日

清々仙



紀玉川二編 鼠六齊巴勢選

巻頭 宏夫と知くつらくはれり
 和玉 和玉
 津丸 津丸
 里蝶 里蝶
 竹馬 竹馬
 馬連 馬連
 竹馬 竹馬
 五柳 五柳
 貫止 貫止

多香 眠子 南眺 素白 雲城 志友 三巴 南孝
 考しよふ女此 次しよち男
 味方する氣の足してあり居る而
 つまね秋掃の直とせまるとんろ
 小うろしき背中ふおしをよは
 又、禁くしけける女此考しよの
 か大女かとれらよ布長衣信よん
 こそくしよちあて物と給ふあうり
 二アまゝのハ物よふせうし水奥イ
 ともくし物中く女此の影くす

雲城 糸柳 涛丸 什伍 緑 一毛 百女 多香 三己
 百姓らとせよもあしと親く似る
 う人もらふ一果しよみよと端夕物よ
 冬うろしと下らうり乃る大まうん
 ひろくわくとせよと物よの親ハ位
 是年一へまう物まふまを考しよとケ
 かのわしとせよとふ通る笑ふ
 あつとせよと人乃わくくする大物登
 ぼしとせよとせよと物夜をせよと
 喉もせよとせよと女此うしあてせ

華住とてはつとこれまう黒羽乙ま 志友
 むすあ此流あく名下甲さん 五折
 馬乃尾くちる増乃あさお 南北
 何れと春うへ後乃やうな杖う来る 百女
 増乃あるはけけの世しと報をうる 露通
 るまて人せうま増快ま有り有りけり 三巴
 ちつましとてまきまかまうとん 南北
 小つみとまあよとてくまはう去の 志友
 耳うらまはまきと出と音辨まをの 浦丸

大と小家二三段好て寺ハ建 寿山
 大女房丈の小兵うくらやい 百女
 町人のくらやうふんり 馬連
 ねさうりふるうう女れみりやとら 士口
 無人の運志のめれまおの体 多香
 むの申つ色ちんまきうう物 南北
 女房のつとまううの柳みうし 志友
 江戸とら入さううく去い母のうま 土木
 兜の掉しうのへあうう 杜毛

桑あつと大浜のねはま見わつ
 さひさをねとさうみさうえ
 人々ふささうみちてか足百
 陰言わうし浄さうり不れ得
 巻紙て巾をかきさうり紙
 けつさうり川まふんさうり
 りのうねはなうさうしおおと眼
 穂とほろさうり糸れとさうり
 ちうのむなうさうり増えれまうさうり息

和玉
 全
 志友
 十喜丸
 谷橋
 土木
 里蝶
 露通
 十喜丸

ころく去るく移敷の芭
 玉のあまんとそふきと飽
 澄の約とらうく甲と志の坂
 子けうむほろんで一そ歌り柳
 弦のうさうさふ、紗新め
 ハまれまふふ似合ふ紋物
 ころくさうさうさう女の結さうしけ
 新堂のうさうさうのほく結さうら
 ねと柳なうさうさうさうふ歌さうさ

三巴
 志友
 雲城
 和玉
 志友
 和玉
 百女
 全
 正丸

中々ちんちんあまめろごうけ
 比々身持玉の丸の物戸よみ
 女房と一房ふせく禪うけ
 始りしをくらうけ昨乞枝
 ちあ良清上碎く又始しん
 廊下うんごハ中足のことさ
 何と角と知くすまの幸とらう
 さうさのあふれぬ女室
 くらうごやうま老人の墓
 三巴
 鬼丸
 芦童
 和玉
 南孝
 芦童
 百女
 糸柳
 志友

離うくと甲や大青て男く
 日くありの侍をゆくとふあを入
 わらうらよまうれと侍女
 人とみまぬ花梅の徳
 産くふんてやる服のまふ伯父
 端下始りて入細くやなれぬ
 ましとあうらやとことかひつる
 小中をせくととら入口より半
 ちんちん天降くくと今
 三巴
 一毛
 素白
 芦童
 志友
 月丸
 志友
 高笑
 芦童

水と宮入りれと小判く壺切き
 まいりかめとくろく不この品
 御正白きまてませぬと小くろく
 むく大と仲人のく小柳子くろく
 こそ切くある女房のまじ
 冬くろくくろくくろくと思くろく
 みか子若りくくく賞いくろくく
 名傍のく平え細はくろくくろく
 びやのまつくくくく徳子の丸く賞
 百女
 南北
 南孝
 志友
 尾上
 南北
 眠子
 百女
 一毛

五

唯山月小まの例を喰街も
 お換えなけりあゝ家お杖のお
 新板の小判りくろくくろくくろく
 と平のく新考くせろくくろくくろく
 悔りくろくくろくくろくくろくくろく
 養菊のく菊く一せくと大娘中
 破乃ゆけと捨くろくくろくくろく
 と右半今くまてくも尻くろくくろく
 雑枕のき妙吐あす大相
 士口
 百女
 和玉
 志友
 全
 仁毛
 市仙
 谷橋
 和玉

巻軸 石うさぎのやうく物さへ去ぬし 和玉

深草房五嶺選

巻頭 沖杉よ 梓あさるふむく人家 雲城

八字乃あまの似命人ぬ物 和玉

みくくのふみはよみ後と曇る人 全

四さみりしうみ後のも衣 志友

会歌のあまひちまのふり物籠 十喜九

傍をいそふりしうみ新衣 五六

小ころしうみ中ふさしをさし 素白

夕アをらり作白の月 一柱

夕とすてぬね女あられが次戸也 多喜

夕とすてぬね女あられが次戸也 芦童

夕とすてぬね女あられが次戸也 木友

夕とすてぬね女あられが次戸也 多喜

夕とすてぬね女あられが次戸也 志友

夕とすてぬね女あられが次戸也 多喜

夕とすてぬね女あられが次戸也 貫止

夕とすてぬね女あられが次戸也 市仙

雲城
 多香
 志友
 南北
 濤丸
 遜志
 多香
 志友
 苗小

南孝
 雲城
 士口
 南俳
 来曉
 什伍
 南北
 竹馬
 百女

志友 若の咲くくくくくくくくく
 百女 職修人鼻傷心居も何とく
 雲城 君代の砂城大なる肩よりけり
 百女 ちの先世海やちうよんれ甲と
 馬連 ちのちとるりつとくふ金月
 塵丸 物と生改くくくくくくくく
 龍遊 人魂のそいやくくくくくくく
 百女 氏之物と廻故くくくくくく
 志友 多良河くくくくくくくく

十

史文

南北 梅柳きくくくくくくくく
 全 緋のりて鼻比下々鳴くくく
 全 甲のいの志がくくくくくく
 鬼丸 ちのち神紙を代替くくく
 貫止 君のちあくとくくくくく
 南眺 杖をてきくくくくくく
 南孝 脚のいの白鼻もぐくくく
 寿山 ちのちくくくくくく
 正丸 石燈もくくくくくく

北のちりさくら天つらうらり
 北
 北よりるれ之味大敷あるよ止
 濤丸
 津路傳て教しと後家とん中か
 座丸
 北のちりさくら似合海し
 雲城
 北のちりさくら秘結孤さへそ一お
 全
 北よりるれ之味大敷あるよ止
 余柳
 元とひうらとそ名の多い
 志友
 北のちりさくら時平の影を土俵
 和玉
 北のちりさくら角力集十一評
 来曉

北のちりさくら男画 見
 志友
 北のちりさくらケガや袖の足
 百女
 北のちりさくら花さうりそとひ
 南考

吳竹芥一壽選

北頭
 北のちりさくらふあれらとむもい
 南北
 北のちりさくらああり女希む
 和玉
 北のちりさくらに於るの親うは
 什伍
 北のちりさくらひくえきの巻北に
 桂雨
 北のちりさくらあふのあふあ
 素白

一ありてゆきうきさうありし
 旗山の月と夏州と晴傷も
 とき及町とらとととて男と女
 乙辰やとととととととととと
 昨乃思しと胃龍とありと叫と呼と
 人の居ぬとととととととととと
 又乃とととととととととととと
 ととの志とととととととととと
 下とととととととととととと
 雲城

一ありてゆきうきさうありし
 旗山の月と夏州と晴傷も
 とき及町とらとととととととと
 乙辰やとととととととととと
 昨乃思しと胃龍とありと叫と呼と
 人の居ぬとととととととととと
 又乃とととととととととととと
 ととの志とととととととととと
 下とととととととととととと
 雲城

海丸 士口 露通 南北 和玉 志友 雲城 十喜丸 志友 雲城

もろくもなまより合せてみらうらほは 二三四

白ふらぬあまをとりし人杖うせ 雲城

此をばらまゆと志すは紙をばら 土木

さきふお府のふりし一曲 什伍

ひまをくつとちうらふほぬはあめ 紅毛

何代もをいふそのをりしを 浦丸

去乃くめらぬさうふらむをのふ 南北

綿のさき居る果の中へは作ぬあま 和玉

あまのくあてしりしのとらむをいふ 玉水

あまの居る女わりの物どもふ合ぬ 五柳

都のさかあまのむらさきをいふ 多谷

あまのさかあまのむらさきをいふ 志友

あまのさかあまのむらさきをいふ 來曉

あまのさかあまのむらさきをいふ 志友

あまのさかあまのむらさきをいふ 雲城

あまのさかあまのむらさきをいふ 浦丸

あまのさかあまのむらさきをいふ 和玉

あまのさかあまのむらさきをいふ 全

お針しきあやもて様申れを燈入
 女音もよふ　よみもなかり
 美人友しとてなほうしと書ハ大也常
 世とまてとるる人唐のちとち子
 是れち妙言法てちあくと能う又
 世と一服とてとり物いなり入る
 女音のりつとてあう此物みりし
 物つひれまの物つひてははらう
 下戸もくぬのてつとつとてい凌
 素山
 梅子
 多吞
 隣々
 和玉
 紅毛
 志友
 南北
 露通

うらつとてあふとてあふとてあふ
 ながくくうたふあふあふ
 あううーやあ旋のれとあてあふ
 弦生れは滋養とああ病の傍
 舞ふあふとてあふとてあふ
 紙よりりけさせとてあふのあふ
 ちこれあうううあふあふあふ
 ちんまうんまうんあふあふあふ
 赤白とあふあふあふあふあふ
 糸拵
 十妻丸
 紅毛
 市如
 浦丸
 竹島
 重珠
 浦丸
 重珠

今はの山紙なり午の秋身一
 所人がぬ情くを主人 冥まけり
 志くもくも車も咄して町をそく
 切殺れ身をかりすそくかきつらと
 百生入とささう丁児のせりりりり
 了ま殺りひねりてもふ老まよ傍
 わろくわくりふろくく思と知り
 本妻の良女て妻よせりりりりり
 けきも悪人 悪人 悪人 然 然
 中 祿

今さわく急を男の顔とあり
 名ゆきふゆのふりてわたりて
 急なふり男とけりりりりりり
 人の目や紙をくろく大書取
 得てしるるる中りりりりりり
 少春るるるるるる一少批判
 多漏るるるるるるるるるる
 女房のつりりりりりりりりり
 るるるるるるるるるるるる
 百水

目打すかふあうーとととと
 百女
 多きとぬくそんそ
 連
 ふうふうけいあうコレ
 什伏
 とうとうんてすま一のあふり
 和公
 第一とけき杖の建去り
 むか
 ふうりの因果位おのせとけ
 全
 あううううふの山入夕湯
 ま白
 そやううそくぬをしりぬとまふと志
 庵丸
 女主人の改帳もあういあうて
 万女

白乃竹湯くぬ人のあふぬ味
 糸柳
 香いふふふた甲の似城
 志友
 移てううう後んね魚いさううい
 百女
 ううう尾よちう精乃ぬ志も
 南北
 改帳も人うれのううね崎乃杖
 眠子
 ままをこのかまうては白丸
 志友
 ふううういふあううあうてねううう
 浦丸
 多人乃侍り術をものそよひさうり
 寺城
 あうううれさうあうあううぬうたり
 多吞

人名の屋大名乃曾放まき
名有り人の目と系く酒とゆ
あまのれハ悟るすらのとちおえ
庭を望まけち女と怖ひその
多谷 一山

市中葦魯桂選

米頭 松在乃高とふ尺くぬきとらも
親乃親とあつあつとるる花の枝
まゝ人産るるれうとまのちるん
多言

ろつくりとふと身傍乃いと白乞
服くつりや親くくそてあつうん
氣乃産ひ紙を志事人の江戸紙り
くくふを志事ふ人うう
人の服れと事なるた人の親子つれ
何乃とふ志事ん又つきと時乃むひ
始末丁の事けなうり別業
まゝととくろ乃伽り志事んきく
持乃う人うう細紙一解 宣
浦丸 全 雲城 大助 南孝 未曉 百女 五折 木友

うねうねとせむねの材布のふくれさ
 江戸の笑より浮遊して嬉しく
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 婿人うねとせむねの材布のふくれさ
 活舌とせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 師うねうねとせむねの材布のふくれさ
 業うねうねとせむねの材布のふくれさ
 針うねうねとせむねの材布のふくれさ

海丸 志友 イキ 西丸 苗北 谷橋 月丸 浦丸 糸柳

うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ
 うねうねとせむねの材布のふくれさ

行る 多春 志友 全 万女 多春 一毛 浦丸 万女

せんまわや時鐘しやふいとさうり
 ほろろ入々れりうらむ
 ちかちかほむらひの後又ん
 ちかちかほむらひの後又ん
 あつりなきうら人の路よつこ
 縁うけて海人のとさるんあて
 ん泥ふまゝくろひの茶こ
 系柳あゝあふあまそんかき
 石井の徳もろけとと大らひき
 眠子 浦丸 百女 中城 高矢 志友 系柳 志友 一七

執事町乃各もろろく
 化融して近る程 疾
 人々うらとやうふあそと〜佩
 だんの三つ〜丸時と御てんる
 中あそふ柔も男は士あり
 ちみ〜子幸り〜り〜不意あそ
 若乃ま〜此仲居〜く教利
 何代も〜あふひ〜通う〜あ
 新じ〜う〜あそ〜あつり
 市仙 志友 雲城 和玉 士木 浦丸 系柳 浦丸 志友 志友 志友

のをみれば人よりほかにふも地
 市仙
 正九
 梅子
 五六
 素山
 五節
 百女
 來曉
 多吞
 飯焚乃かんとんおと抄子類

借けりり子新便人乃名も人足り
 雪城
 志友
 一山
 全
 漆丸
 里友
 巻軸
 大縁とにきて学をむ乃子枕森

節々堂如竹選

巻頭
 清あゝと春まわりけり母のをれ
 里曉
 子性あゝをを全層人研ととれ
 紅毛

湯あらし入る危のなま 一水 多吞
 律垣しち湯いまきさるうあれさか 百女
 和しきと一歩あへさうとい 貫止
 亭や待人出くすと丁なり和能 和玉
 多吞乃とくち種り多きい 全
 多傷と煮しるねる侍とをま 南北
 師と東山と種あると日乃つさ 今
 人ひくうりなをぬるを女の情 龜遊
 かけまやと種とくく手雙の系 多吞

赤由しとまうあるさうま味とお 貫止
 名をのこいあまうつわきさうま 三巴
 名傷りて皆さるあさひ比くくく 和玉
 昨しあ子のねよつうく書の旁 多吞
 知うふとくくく服後平玉 里螺
 後ゆしよつそくくや傷てとらふ 土木
 水あしとえのあいまこけぬる 南北
 不ふとゆらうくくそ代めき 和玉
 ゆをゆかしくくあふほようけ 苗山

さあぐりなまれりちるは月
あふとくしやくわと新く物
安井へくを扱とる物言のふは
ふりかふとあてしきく
酒らんくあさく女角とあまきせ
あふひ乃折とくくくはくか
又と巻とあてくくくあ乃用
まけくく仲居とまきくあ
あふとあふくあ乃くあ

今 尾上 和玉 里友 土口 竹馬 浅丸 万七 万女

御とのくはもあふのりく居ぬ
あふ所を書くとあふのあはま
酒中の運とあふくくくあ
あふもあふくくあふくあ
あふくくあふくあふくあ
あふくくあふくあふくあ
あふくくあふくあふくあ
あふくくあふくあふくあ
あふくくあふくあふくあ

喜山 志友 百女 今 系柳 一奴 百女 寺城 今

古ひ家歌のあはるる布巻敷
 紅毛のうけとせし又のせしあ
 はら敷るうおまやゆきみ見
 あう人の白岸ううし人素白ふ
 かさうらと支節ふとき娘あり
 下しとて中もぬまれぬ子あ
 ののうらうううは通るるあ
 う男このおとらううのうら
 名月や鳥柳よ 柳舟更う
 系抄
 竹子
 万女
 浦丸
 紅毛
 素白
 一毛
 吾柳
 鳥柳

のりりぬる年信山坊をゆき
 親のうとて後て丹ちをきい
 ち代中う異籠男けいほあま
 作建よのゆきああれあうら
 けいせうとてとれと親まて実うあ
 男はなぬの入とと敷け
 冬あともなぬまうけよねうあ
 陰着がうう降るうりう終梅
 春門ま水陽おるた
 万女
 了矣
 妖子
 和玉
 土木
 桂西
 多言
 十言丸
 金城

若返らしく存うひらひら
 美人の里一玉は台まうせ
 源判のそりぬり大坂より
 翠丸のあひ舞うり川東
 松糸のそ男さうく人音此月
 妻吟よかんくきり此留きん
 人音のそく人まうりのひらうそ
 松あまうりある親れあく性
 若れら先生さうくあつあつ此留

全
 緑
 鬼丸
 志友
 あは
 玉水
 志友
 里蝶
 万女

若返らしく存うひらひら
 美人の里一玉は台まうせ
 源判のそりぬり大坂より
 翠丸のあひ舞うり川東
 松糸のそ男さうく人音此月
 妻吟よかんくきり此留きん
 人音のそく人まうりのひらうそ
 松あまうりある親れあく性
 若れら先生さうくあつあつ此留

里蝶
 万女
 今
 青山
 多春
 里蝶
 十美丸
 万女
 若水

極先もぬきしきろくろよみ
 まろひふなりても乳かき結
 三人の事をわすれし織つじき
 かゝるころさしめりてれきんし
 去つたかき増えたるくさ
 桃城のきしけふねをと掃くろ
 五柳
 苗若
 緑
 志支
 十美丸
 苗地

米頭

強歩たすもすしあ親の細
 喪くく賑中の子え日

百女
 侍丸

桃下奪法策選

去乃里極よくあきう髪かり
 鶉つひもなれねのつてん伏せり
 初よりそのまじりぬぬなるの
 弘世畧かろしつゝ身をかひれ書
 中妻れしとまらうるふ大きき
 根よむをうろくまやのれつとも
 杖氣てらるゝ丸をらふはまはる
 沙ををうろくまとあひひるひ
 源れきうれなれぬのせもはひ
 五六
 十美丸
 多吞
 雲城
 音楓
 系柳
 緑
 市仙
 百女

乳味湯やうよとの母の良
 軍帳よさうし一車むらうし
 昨未すり車ハ下もく暮坊
 酒息そ女房のまきし物さ
 のうらん元くはせの多ひう
 ちん辰神とんをまつと小止おれ
 八節梅は兒身わさし
 妻うらふ仲一辰もまゝるあ葉
 清まを張きと脱く杖色

筆丸
 月丸
 可女
 志友
 浦丸
 鬼丸
 去友
 百女
 浦丸

後よまがしう洋しう名れ娘
 人のよらとふ娘の老を助う
 女支旅智うとりのあんさう
 ち切なをまののあちまを能
 かういさうしうそのきふん
 又のうぬうう。娘統を隠し
 貞まのけしとちを替れまし
 けしとちの娘のまのまの
 けしとちのまのまのまの

十老丸
 百女
 土赤
 去友
 十老丸
 土赤
 多吞
 也止

子あひまかる 花登のあつらんあり
 けつとわらう ねふよりぬつ
 きつりけのあひも操のうきより入り
 美濃尾張に水戸肥後津和野の武士
 志つみや城くちやや喰らみ
 海のある島れとさうしつらんれさうり
 くらかりの登りさうさうさう
 らくの志しんを指本れぬ
 ぼりんちんのもくまうふ入りま
 成子
 雲地
 合
 美白
 三巴
 家通
 吾新
 辰子
 万女

氣とさくちかなく 茶州をいひよせ
 耳のちかきちかきと梓うきい
 ちかきとんちかきをなれしつ
 のしつとちかきとさうさうさう
 ちかきとさうさうさうさうさう
 氏のつとさうさうさうさうさう
 ちかきとさうさうさうさうさう
 海とあてやまの成田れちかきと
 海の極友とさうさうさうさう
 成子
 雲地
 合
 美白
 三巴
 家通
 吾新
 辰子
 万女

夕人のまひしちかろよ 翠うさひ 今
 賢人うせさるう 脚もと 物を書 今
 きてくさいのらさる人 大切く 未曉
 言明るさされふすすのさうせぬ 多春
 うらうらう 他人をさるふさふ 緑
 けさうひて 言ふ 物を書ぬ 日友
 女房らいく 叔母さの 臨す 志友
 解いとくうさうさうさう 月丸
 経花若 菅相めを 志士んす 和玉

女房らいく 叔母さの 臨す 志友
 解いとくうさうさうさう 月丸
 経花若 菅相めを 志士んす 和玉
 女房らいく 叔母さの 臨す 志友
 解いとくうさうさうさう 月丸
 経花若 菅相めを 志士んす 和玉
 女房らいく 叔母さの 臨す 志友
 解いとくうさうさうさう 月丸
 経花若 菅相めを 志士んす 和玉

女房こころをさるやと地志あはる
 人うしれにちあやふあはる尾一佩
 ころあはるあはるはをすてころぬ
 ころあはるあはるふけきこ思うる
 中あはるあはると男は士うる
 ころあはるあはるとにきる松耳
 夕終とつてお備はるうるうり
 まてけてのあはるは岸ふしうり
 けいあはると一し思あはるあはるつて

百女
 戸母
 多香
 中塔
 士木
 志友
 志友
 志友
 十香丸

四文
 柳ころうあまきりる物早あはる
 うあはるあはると一試うとあはる妙
 ころあはるあはるとあはるあはる
 東山あはるあはるとあはるあはる
 うあはるあはるとあはるあはるあはる
 志うあはるとあはるとあはるとあはる
 食あはるあはるとあはるとあはるとあはる
 まあはるあはるとあはるとあはるとあはる
 ころあはるとあはるとあはるとあはる

一巻
 壺丸
 五折
 本座
 浦丸
 壺丸
 あは
 百女
 一巻

ろうを仲とんををつさよとせえ
 物えんうとあふのあふ物をとん
 果うりふまきくふちうさる
 厚風いくとたて胃の息うしと
 人變ととまきを飯イと男
 ううのさちとさううそのまふん
 次臨とまきくはさけきくあ
 ちあう方と親しととら果のた
 行ととんとくまふひとと思と情

鬼丸
あか
土口
市仙
糸花
志支
徳丸
苗和
之松

丑文

え手しその氣ておろうが陰月
 親もる理つけてとるあのか
 智とあのかと入持りうあれを
 名月や冠の弦をメと一
 名りのちちひと又の研うとん
 のんぬんて侍くあまのぬ
 そふやとさけんしやせふととらあ
 りと入てあれとるま侍出と
 術ありとあましくととる乃

百女
全
五
志
志
一
紙子
土木
苗和

米油

波とりのうきうきとて娘と意付し
 音乃折く多路を尋らう物
 馬を空の女にゆけとれる歌
 けまことけ女房つとくもう種
 先女方さんきと世帯のたきん
 中居くーの中へりれよ降と結
 空明るとた乃うすまへちうせぬ
 きうくすわくん生のゆき乃くら
 怪判のとうろゑり大よち入
 志友
 音小
 舟丸
 喬色
 百小
 多吞
 粒而
 鬼丸

桐芽菴曲坡選

米頭

此を畀りうらむはは子のま
 音乃折く多路を尋らう物
 新吹の小判てけいひはとも
 辰乃音乃くけいへかよ母はを
 かうくわいけいけいけいけい
 音乃折く多路を尋らう物
 ち男とのかははしちをわがうり
 死線乃きー最送者の笑
 雲城
 南北
 鬼丸
 竹馬
 志友
 壽山
 吾柳
 土口

遠くゆきゆくあしはゆい年一
 山中てそそ然とくも清涼
 何代もあそひのあつたる
 何れもとつてけいふ人のあつた
 方ふ乃人ともあつたる大 渡
 ころもまじり人りまよふあ
 丁評てまよとあつたる有財がと
 せんともりりみまよとあつたる
 ねくろがわぬぬ世の紅子法り

尾上
 南北
 浦丸
 南群
 多吞
 大分
 百女
 去友
 梅子

森のこころぬ白もそらふて福もく
 われてわろ人今もけのあつた
 なりくれば幸抱咳を度へあつた
 ちんちんもあつたるそらへんせぬ
 病りやよふこれ病なり
 恥乃くくぬり尼のせりら
 何人ともあつたるそらへんせぬ
 ちんちんもあつたるそらへんせぬ
 張つてくくくくくくくくくく

南北
 全
 紅毛
 南群
 時丸
 木友
 ちんちん
 志友
 ちんちん

子ろくしすいふ男乃名と輕く入
 浦丸
 仲と名の情内事取ふと砂をけけ
 紅毛
 結ふ結といと合一係々
 多吞
 多ふふよこころそまふ丸ふ海舟人
 桂雨
 志んかふと事すとくひく幸地を
 来晚
 二階う入ふふゆりきふは
 眠子
 住ふへ是るま合乃四
 志友
 枕乃くうまふ仲と痛ととれを
 什伍
 波山とわらうて是とあしひ
 市仙

四文

くら寝る物本似合人と味
 百女
 石地乃泥坊もたふしととてあり
 鬼丸
 まふかれて出せしとくと銀は
 百女
 とくくはさるる様のまくと更
 壽山
 多ふ人知のてふととふと日
 梅子
 かとくきとて一声あふとふとて
 十世丸
 尾うらとて一はれおの碑
 歩山
 伽羅乃居るうととてとてとて
 万女
 百人のまういしとてとてとて
 志友

乃り合此膝俾月下一そ 詠
 眼をとりかきふもふあうれ
 ねくけく噂集う付古教と
 舟中と多き乃あうる場
 笑しんはあうれ一そあり
 仲居とくあんと更くと年忘
 能きあうれくはんとこの乃あうら
 鏡はくあうれくはんとあうら
 見よ方の皇とあうれくはんとあうら

志友
 市仙
 南眺
 一
 鬼丸
 石女
 竹馬
 土木

多偏ちながして御代の杖と参
 海ものうあうれくはんとあうら
 昔殿氏字活指く目と志りて
 弁茶とあうれくはんとあうら
 比獄年一あうれくはんとあうら
 多うれのおとあうれくはんとあうら
 果報つとあうれくはんとあうら
 あうれのおとあうれくはんとあうら
 石州とあうれくはんとあうら

素白
 志友
 竹馬
 百女
 鬼丸
 泰山
 浦丸
 紅毛
 土木

笑軸

四糸ふ塔の遊くまの島 古小

米頭

泰平菴崎南選

舞をよふなりくく文御しへ 遜志
 さくわけのあひまを笑と成りし人 土木
 唐早くて神代りさるも玉くさる 志友
 うつろいこ子ハあきてまをまを名 谷橋
 らくまてくくふりの思ふ泰平地日士 志友
 人らうろくく死るあの場合 多吞
 嬉しくながぬ紗布のふくれつ 漆丸

信らうろくぬ事ふじ純くとい 南孝
 名人もね無りらとあまんと 一毛
 物つみの子はうつへてはまろく 南北
 ひろくまろくくをきてくくて負 緑
 名もなまらぬく常解の里 紅毛
 たうろく二五人けくあゆむ時 隣々
 日さうりふある女の終母を結 士口
 ひろり舞うとれハ古事女の女え 書帆
 ひろくく死さうらあくしとれ入 三巴

志くれのけり山のよとつ
 志経のうらむけく甘ひ親
 夜食昼喰て何らまわうか
 志くは衣まぬふらねえ
 年うりふまて物と者辨まもの
 傷ふく喰ふ加ふくれぬ
 志くもの女房のけりか振舞
 志経へ文くてもうも噂と子信
 親乃鼻つま入てふり物有るの子

南北
 百女
 イキ
 雲城
 浦丸
 里友
 南孝
 和玉
 志友

四十六

志くふとれへ上布志る志高志
 易く志くともう志夜の絶せふ
 志くは志くても半是るか表生
 志くせふ志くともうの志ひの士
 志くは志く仲間唯ても志くま割
 志経や志かも血り巾く
 志く志のうけくとも志仲間信
 志くは志くと嘆ル咽ラ断リ似志
 志くは志くかつての志くまうノ

緑
 什伍
 志山
 志水
 浦丸
 百女
 志玉
 志友
 全

尻乃青のしんけしと何よあはれを
 村乃花結りまは後の美雨
 人のみさるさねのきりぬきりもの
 翠丸もちおれむらいて門よ次
 女角不義でくま女乃 状
 藤ふみくらの紫より急おの振泊純
 早もまつるもな代城もふかこを子
 後とくし〜れま〜と件人の状
 本妻乃伴別もわく大尋備
 又味

四八

出ま下結てあまのしゆる換り義
 春て〜〜只り〜ぬ方の母となり
 子乃守の婆ありきれとすまお
 けれてかる人よちり灯の並所
 山直〜〜の 万代の錦
 か葉も人て妻のゆたろ〜
 括子ねるのこ味〜〜つろ〜止
 春〜〜の〜
 春〜〜の〜代を〜
 伊キ
 今
 甲北
 今
 志友
 雲城
 漆丸
 芦童
 木友

始末せぬくし志まらぬ始末を乞
 素の髪をぬてお猫も痛く
 さしりしは禁酒の支しおを極
 多層と申す魚のつとて魚公卒
 鬼丸・神純かなあつとよと切りの
 人魂うぬひたまふを女とレ
 けりしとくくし物事の細事并利
 ともあけのあつとけりれの素あれし
 那のわけと捨喰つとらふ事分
 市仙

四九

管此丁急おなぐくうと求り
 名信りかきり結まの比獄し
 常力う似合一家へをを自入せ
 傍ふ白きまへませぬと小くうり
 大地打つらうとふえととこれ月
 名をのこもとあんうらりてかろ
 ちあこれ丁又鬪り細切ル
 巾袖り此信らお年とあれ入
 人うらんとらりあつとお柳百
 志友 和玉 上木 有孝 露通 三巴 桂雨 一毛 志友

十はらふふあうれて仕事止 筆丸
 小豆飯味よから聲の力とく 梅子
 子れまう千実れとく世のうり 日蝶
 室をよ字けんもまをまけりよ 和玉
 ぬまそへ吹ぬあうしとか減りの 十太丸
 傾くれと悪をまを子と飲ひるさ 什伍
 月る人の窓をけんと吹た乃月 控面
 お授りのの粒とくあうくわ灯きく 正丸
 人うれとくアうあう急うくさ 志友

冬うきと一トカ入る 大まうと 壽丸

米軸 節ち破ふあり大を子扇子お 芦童

浅茅菴羅山選

米頭 大名へうふあれ丸情もよ弟子 雲城

ひくうく〜 綱ううふむとあうり 鬼丸

三弘ん限るひむなとらとかと月 浄心

迴文 孝了附のこくろを死刀非の武急 塵丸

久もろのち珍物てかこの創業 南扉

栗山 徳つれぬのときをうらうり 寿山

園と縁とふりあふ 今更月 百十
 中人の縁とふりあふ 今更月 百十
 法生此志如く 多物比傍 全
 方とすあね女あつれを次ぐ也 多香
 唯いふもれ男とくも惜乃 恋 正丸
 事と富士とくも今の 喉 ちん
 業しあてても 翠とくも名うり 年丸
 美女の如くあつれて 我を志とあり 土木
 人多くいまもくもり 博しん 志友

紅毛 紅毛
 志友 志友
 多香 多香
 志友 志友
 遊志 遊志
 正丸 正丸
 多香 多香
 白小 白小
 神 神
 志友 志友
 人物乃とくもくもれぬとくもれ

四文

白ひんせの坊と隣りぬ 竹馬
 ころもりのときくそのまはたの林 今
 りふふ一ヶ所 鏡と大指し 一狂
 口は茶平 甲の物と 陰 甲場
 まゝのまゝまゝのしんい 市仙
 眼鏡 眼中 掌 紙子 枝 尚 筆 玄 什伍
 ひは 呼ぶかくと 杖のせ 新丸
 久くく痛て 是る百姓の衣 倉 寿山
 細く 肉のひりて 善いし ひとまう 冬丸

信物とて さままゝ 世と母の世 十表丸
 心刺て 気と きましつ 洗入る 唐水 言笑
 ねくくくく ちり 母の志くぬう 万女
 五瓶 香 隠 縁 傍の ん 能くまこり 和玉
 子を抱て 圓 丸 杖の 巻を 扱ふ 七 志友
 うろくくく けりや 晴 甲の子 殿の 柳 隣り
 りん 糸の 志 心て つくろ 女 十 由十
 うみふを ままう 一 後乃 燈 御 五 志也

ひとり舞うるれうまのまろり
 幾つと舞うや相やあはれぬ
 自らうつやんそと節のつー提
 しろ平れ徳と見えはるけー節
 人抱もとんますうう愛あひ
 身清うけまこが毎の舞柳と
 歌と破く舞う大鼓を崩さぬ
 五人の女房と二人ぬこ下橋
 倉橋と舞入村平うは海流

多吞
 志友
 豊止
 系柳
 多空
 露面
 芦童
 芍帆
 一也

名とけまあうー平野乃里
 吾人乃うぬ妻揚く福田ひり
 待くもる橋立ありさき事う
 ぶと酒もさうはうう舞まむ
 上候てうう半一石村志しぬえ
 竹とうとまうくはむうさうい
 橋まひ一家乃ううう便ううう
 舞ううう人つと味強て河人
 猫うまうせちけいひ女吹うう

紅毛
 谷橋
 南北
 竹馬
 音帆
 隣く
 竹馬
 五六
 南北

和城と乃せく和と清と月乃和
能い多きおしつと一十世と和
母くえへおと和とつとせは純子
貞室とそと和らりひとら
志くしてあふとかへおと和
取との吐して和と海えと
志くしてと和と和と和と和
和と和と和と和と和と和
和と和と和と和と和と和

寿山
百女
正丸
谷指
慶丸
和玉
五柳
和玉
百女

五十四

歌枕とみそのきりり舞つと
ととととととととととと
つとつとつとつとつとつと
和事一あうまと和と和と和
又と和の送とつとつとつと
源氏まを和とつとつとつと
みと和の和とつとつとつと
和と和と和と和と和と和
和と和と和と和と和と和

新丸
和玉
梅子
三巴
全
志反
一キ
一毛
寿山

吹うしと時中田うしと紀よつこ 一毛
 会釈うかまひままの振う純純 十表丸
 ちんちんよちんちんてんてんてんてん 紅毛
 びんのうんちんちんちんちんちん 来喰
 ちんちんちんちんちんちんちん 桂雨
 ちんちんちんちんちんちんちん 百女
 ちんちんちんちんちんちんちん 竹馬
 村乃より合後後にみすし 赤山
 ううううううううううううう 和玉

ちんちんちんちんちんちんちん 隣々
 花乃甲うへとちんちんちんちん 有山
 白くぶるこれけけ白く白く白く 什伍
 碓氷の供此丁の人の泣きよを 百女
 母ちんちんちんちんちんちんちん 志友
 かちんちんちんちんちんちんちん 全
 ちんちんちんちんちんちんちん 多吞
 ちんちんちんちんちんちんちん 五柳
 ちんちんちんちんちんちんちん 青楓

近是此美名尻の事よ左止り 志友
多しひく彦子様了方の事 尚孝
さしひくふ此れ竹麻と入禰作 一狂
美袖 多しひくふ此れ竹麻と入禰作 多吞

浪華坊蘆菖選

美以 船人問此船うんくは刀被 治 尾上
くくくりの声ひふこゑいさひ 眠子
とふくかぬふふと幸一の事 志友
くろくくくくくくくくくく 付伍

とふれつ竹ひをまのふりつてく 十花丸
さぼり半かなるを坊うあまふ 百女
樹まのりの刺あまもてを並柏人 今
登り明くされの横ちけくうせぬ 多吞
まへ人病うと死飛のふい帯とく 志友
まあそりふとね坊のいとむ乞 浦丸
将ひのけしつるねね抱きメる 湊山
舟一すうと音かくり守りく移らふ 士口
晴くくくくくくくくくくく 馬連

紅粉筆と母のかりふあふいの
 百女
 子状を出し女を有りいづるを
 里蝶
 姉とていづり殺者つゝと出る
 赤柳
 式日めくくろふを殺るるをこれ
 湯丸
 さし定てまあうりまうりありあふ
 百女
 かんさしとていづり殺すといふ
 赤柳
 見えくくろふおのりしを殺るるを
 赤柳
 玉子さけのむち隠居のまかぶる
 赤柳
 ぶね抜きうりまを抜るるを
 赤柳

けの儀とけておなすふあふい
 谷橋
 水くくろふを殺るるを角力の婦
 鬼丸
 あふいとていづり殺すといふ
 谷橋
 角力とていづり殺すといふ
 百女
 子とていづり殺すといふ
 筆丸
 赤柳とていづり殺すといふ
 市仙
 後地乃けくくろふを殺すといふ
 和五
 紅粉筆とていづり殺すといふ
 志友
 くくろふを殺すといふ
 五柳

うりくくと啼やと念の毫の傍 鬼丸
 り巻りを通る女の於母家乃 土口
 右とれ負い母をて碎一柱を 一山
 うん肉と居る元脚居れ母をを 鬼丸
 知らつゝあゝ下におちる下終 南北
 知らくゝんわたり砂をて所 志友
 而くくゝんわたり丁児ろちるりり 土口
 おやの意ツクく夜また丸を買 一毛
 陰者けくく浄るりふれ清 十玄丸

廿八

ちんちん水北人の心ちりりり 吉如
 心ちんちんちん果代乃 妙 志友
 帯カゝ何合一家へもをるる世 土木
 向くくゝんの心車丸の砂の尻 全
 業くくゝんをるる乃ちんちん 眠子
 嫁くくゝん 従くくゝん 世代て巾 鬼丸
 蔵種人鼻後正坊も何くく 百女
 始末は半はるる 世 全
 くらひんちんちんあ合ふ之強 全

かりん草ふはくかゝ母の物々女用 志友
 吸押さ知り午さゝあり紙を縛 百帆
 指ひ草りりくく悔人の法則させ 百女
 さそくくふちまそくもく給大あさり 志友
 のくく紙細の折み草一舎 草丸
 妙美く響の方くく志くくく人 十志丸
 りまきくく通くくくほふか出を周 子媒
 配制くくよひ女方くくくく 志友
 志ふさや花らんのみくくの中しむ 子媒

草丸

若くく焼くも併すれを物又 志友
 日海草草年終折の絵 子媒
 折ふくくく志まよくくく女房 竹依
 志う人ちそくく人艘ておる沢 志友
 志まうりれ家と志くく世さ作病 志友
 ら年へ志あくくくくくくくく 竹子
 志あくく居る存の介抱ナ 志友
 志乃くくく中浄くくくく居り久 志友
 志あひのくくくくくく志友 志友

縁先をく繕入のそ急れんあく
 志友
 多友所く勢乃大実
 今
 うけくさハ何ひふりなりし
 由孝
 けりしうとツイしうと口こ
 士口
 孝利ふを居れそふし
 芦孝
 雅森の女房しひそふふ
 土木
 かりうとと初まらる必
 由小
 子ふあつと強も時そふ
 味吃
 志友
 志友をふし一急ふの連
 志友

人乃自此そふり結字人
 志味
 喚とつと男入女れふ
 三巴
 形別をかりし侍ふ口
 多言
 結を界つととの良て
 志友
 急ふと気とせうしてふ
 由小
 和陣と泣のそ男入そ
 士口
 まく涙とそ入まそ東
 志友
 あけてそぬ婿とそ度
 漆丸
 指乃そ人そ細ふ子
 木友

晴し女府よりうり子代聲
 こゝろゆる能の乳を寄て吸
 母のまきんも綿木のうす
 垢のあつてもけの吐しきり
 膚の端終五分れあをま
 分ちち乳のぢん車一吞まぬ
 ちれ尾うちちちのちりまぬ
 せ東ある南船小船の竹尻を透
 さつららるるを信れ目くまうし

眠子
 紅毛
 舐子
 雲過
 百女
 和玉
 ち小
 多言
 中城

お収れうういとあつ出せれ日
 らあより勝をまややあわく
 小くまれくはてらさしれれ
 ちま友ふ友より人合とちりうは法
 ぢみさうくして器親の細くさ
 うしきさうく浄より米れ味
 終半の親くを不ちも色あ
 子かろ志と車小の信より切乃志
 今と厚へ我うる此を碎て去

寿山
 志友
 合
 二三四
 紅毛
 十花丸
 市仙
 南眺
 南北

四文

初く文をり看たりや之并に事
 孫つふふなりつゝ売つゝつゝり
 服乃のりと喚らふひすり船テヨリ
 君佛ア人きしと星をとも罪了
 服後取中野紙子枝者出合
 紫をり秋と多ひすり 僧
 是らもせん生さうやうらふ此有
 氏力にさう神いすふあつゝ病の
 得る事り入七里を便り之

紅毛

志友

三巴

什伍

全

雲城

百七

志友

一毛

六十三

渾思てめ方なきしも物さ
 人乃服れよる男れ行や子つと
 ぬらり物あらうふらり船取よ
 せうられあふわとや言作痛
 さうらうふもさそあつ給大富り
 名氣ましきふ一そ保あれたのれ
 年一及あつと友乃士れ事
 之ケ日きさうんしふ事あ大人負人
 あつらうふら言又もああうら

去友

去春

全

去通

去友

万女

和玉

多吞

泰山

近ありこれりら遠きか大太土
 鶉卵は女唇 暖く子行へ
 多れ差るるまのふを異名 飯の曇衣
 秘をうつととさい書くともありあ
 元ふにちりひたをを餅ふ新紫衣
 花をむいしは花に甲い新
 五つとあふ子をあつう竹々竹を枝
 よいあ肩を自うて ちのめと急そ
 ちとあしををと辞しと 庵を友
 南北
 五柳
 和玉
 正丸
 土木
 三巴
 多香
 南北
 竹馬

六五

花さるるふぬ衣あつう 後の月
 新まら 執とうくひも人持うあ
 他へ極人まあつと 庵送たるは物
 びふとの一脚をらう ける通り編
 横う急う色もたういふ吹竹る
 里人うまきけのほ水も 濁るる
 ほくうふかすとも 花もさすまれ
 下戸かぬらうくつ ねくもすう 漬
 山系を 餅くもくもを 早ぬ 紫衣 庵
 雲 雲
 三巴
 里味
 五柳
 あふ
 新丸
 谷橋
 舟道
 紅毛

貧乏のふれひんきふ母は妙の盗
 趙をこれけつれとて介母望れ
 杖高のぬき靴乃けりみり
 西へけちたぬお乃花の写
 と和うう倦とあせ乃江戸也り
 そとこはあぬ乃以く春か
 純麻ふう春うそろらん春まを
 きくつてさうう又きそい散とつ
 綿まうとやふ母をううひゆ

眼子
 南和
 志友
 多百
 今
 多春
 縁
 志友
 中止

何しつとて ぬみ 西
 衣衣領賜乃けはあとうく
 うひそと 極くこころをく
 とくんとはとくぬ百姓の白い虫
 とく乃てうふ何とて光陰
 百女をあてわあふううを
 ちまかりけせくううう保家徳
 陳文漢文を而中かり街
 業しほとと志まん持一並子

露通
 浦丸
 和玉
 志友
 甲城
 百女
 土木
 什伊
 志友

幕中へ雇はれ此方へし去
多友をよれ乃子代をよれ
乃れれうせり人ら意十や者
ふらうて疾を信能買乃又
吾人の信分意此割とあり
張つて此中へ仲間此布妻如来
納と妹と町せして時とよ
衆乃彼終衣此解へ此去
結と去るううううううう

六六

南北
木友
浦丸
里友
寿山
百女
露通
多吞
正丸

見れ去れうれ此と君の又を控
酒うてまきとめ舟とよふきせ
得お地此と笑も泥毒と頼とせり
争山てせられ多りてとせ就事
志れ乃事とまうと使山
海り来りや行と今う破住とれ
お致乃多虎羊とあうとれぬ
気うううと多友と信と男治と
私を男ひううとせりしとせり

里友
竹馬
多吞
志友
桂雨
竹馬
和玉
雲城
全

千鶴尾といふくま何れも姓
 多吞
 大空乃路子はまきけを言ふぬ
 和玉
 湯をぬと陰に物と紙とを由
 南眺
 高橋乃字脈細を仕らう
 百女
 子代中う是魏蜀よりいばる
 眠子
 近景とくけの甲うふ記まつき
 一毛
 病乃松友強よまれ鳥帽子
 志友
 米軸 本國よ然りうくもせの
 和玉

六七了

笠折句 推本下物評
三種尺

笠附折句 一日菴及朱評
和歌の浦

折句 浪華十二評
芦辺の鶴

折句 南紀五柳評
紀み玉川

俳風 浪花十二評
櫻樽

俳諧書林 紀州若山新通二丁目
帶屋伊兵衛板

此書は和歌三種尺
五言句集の内秀全
をえらび出

此書は十言句集の内
秀全をえらび出
道去るべし

此書は俳諧社一
細角力集にて古今
の名句をえらび

此書は代名達人
の名句をえらび
の勝者をえら

此書はいろは文字と一字
で冠する大書の秀
をえらび出

